

## [退職のご挨拶]

## 退職にあたって

東北大学情報部情報基盤課 千葉 実

送別会などで自分の経歴を聴く機会が多く、改めて気づいたのは、31年間もここ（大型計算機センター → 情報シナジーセンター → サイバーサイエンスセンター（情報部情報基盤課））に勤め、人生の半分以上を過ごしたということです。その中で、たくさんの方に迷惑を掛け、いろいろな方に助けられ、多くの方と楽しい時間を過ごし、少しの悲しい出来事もあり、多くの経験をもらいました。思い起こせば感慨深いものがあります。また、同じ組織内での関わりはもちろんのこと、外部の方との出会いも多かったことにも驚きます。

ちょっと思いつくものだけでも以下のような感じです。

- 新入りの当時。「ふ～ん…こういうものもあるのか…」的な周囲の空気の中、担当したスパコンの前身であるHFP(High speed Fortran Processor)というマシンが導入され、上司からの指示は、「HFP から出力されるエラーメッセージなどの妥当性や正確性をすべてチェックしなさい」というもの。

四苦八苦して取り組んでいた時、利用者でもあった大学院生が手伝いを申し出てくれ、一緒にチェックすることで新人なりに理解も深まり、無事終了することができました。

- ネットワークというものの認知度がまったく無かった1987年頃。

無理解と非難の中で「ネットワークを敷設させてください」と頭を下げながら来る日も来る日も部局の現場調査を行っていました。複数の部局で調査の許可が下りず困りはてている時、偉い先生方に対し一緒に必要性を説いてくれた方々がいました。おかげでスムーズに調査することができ、大いに助けられました。

ちなみに、この頃ネットワークが何者なのか知っている人は殆ど見当たらず、ネットワーク構築に否定的な偉い先生方を悪く言うつもりはありません。何を隠そう私自身もまったく理解していませんでした。従って、無理解や非難は無理もないことだと思います。

- 某大手企業の研究所がWS (UNIX Work Station) を大量に丁寧 (?) に廃棄するとの情報を得て拾得、その後の修理を経てルータやサーバとして多くの場所で活用し普及させるという、一部怪しげな活動に関わった学生や研究者や会社の方との関係はかけがえのないものの一つです。

- 大学が学内ネットワークを整備することが当たり前でなかった頃、地域のネットワークの草の根的活動というか、不適切な表現をお許しいただければゲリラ的活動により東北地区の地域ネットワークを構築すべく私も何もわからないまま参加していました。当時、先頭に立って努力していた多くの個性的な方々も忘れることができません。

この活動は、現在も TOPIC として認知され、地域ネットワークコミュニティとして活動しています。

- 説明やお願い（陳情？）のため本部事務当局の様々な担当者の所に通った頃。多くの先輩方から、事務の「しきたり」や組織や人についての「力学」や「理不尽さ」について、多くのお叱りやご指導をいただきました。今となっては懐かしい思い出です。そのことは、たまたま、今読み返しているカフカの「城」（官僚組織を扱った小説）も若い時とは比べ物にならないほどのリアリティを感じてしまうことから実感します。（「審判」も本棚から探そうと思います。）

などなど…他にも数えきれない経験と思い出があります。今思い返してもとても不思議なことや普通では考えられないこともたくさん溢れてきましたので、この辺で止めておきます。

多くの教職員、学生や企業の方に出会うという機会に恵まれ、出会いにより得られた多く経験や特に多様な価値観は、在職中の大きな糧となり、定年まで勤めることができたと思っています。もし、経験の浅い方々とお話する機会があれば、経験と出会いの大切さや物事の真意（陰にあるのが自己の利益なのか侠気なのかとか（狂ではなく侠））を見極めることの重要性などもお話しできたらと思います。

本当にありがとうございました。

私は引き続き同じ建物に居ることが決まりました。多少くたびれてはおりますが、そういえば記憶も薄れ気味、視野も多少ぼやけるなど機能低下も感じ始めているところですが、若い職員の邪魔にならないよう励みたいと思います。特に、老害と呼ばれることは何としても避けなければなりません（これがなかなか難しいようです）。

今後とも目にするのであれば、今まで同様に声を掛けてくだされば幸いです。